

## 過敏性腸疾患にはまず桂枝加芍薬湯

**Q** 三十八歳、男性。コンピューター関連の会社員。昨年係長になったころから会議の前や商談の時、たびたび腹痛と下痢が起こるようになりました。内科で過敏性腸症候群との診断を受け薬を飲んでいますが、あまり変化がありません。漢方によい薬はありますか。

**A** 過敏性腸症候群は「心の痛み」が「おなか」に現れる機能的疾患である。質問者の場合も昇進を機にストレスが重なり、心の状態と密接なつながりのある腸が警報を発していると思われる。この病気の第一選択剤は桂枝加芍薬湯（けいしかしゃくやくとう）である。芍薬は甘草など他の生薬と組み合わさって腸のぜん動を調節する。胃腸の不快とともに口内炎がでやすく、

それほど空腹でもないのにおなかがゴロゴロとかキユウと鳴って困るという人は半夏瀉心湯（はんげしゃしんとう）がよい。

疲労性の下痢が続くようなら真武湯（しんぶとう）。下痢と便秘を交互に繰り返す場合は、他の漢方医学的所見と併せて柴胡桂枝湯（さいこけいしとう）や小建中湯（しょうけんちゅうとう）を選ぶ。神経過敏の人には香蘇散（こうそさん）や半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）などを考慮する。

この病気は漢方が極めて良い適応となる疾患であり、西洋医学の薬より漢方薬の方が治療成績が勝っていることが比較試験で確かめられている。ぜひ漢方治療を受けてみることをお勧めしたい。